

3 指導上の改善の視点

(1) 生活習慣・家庭学習について

○ 規則正しい生活を送ることができるようにするために

「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」子どもほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

子どもが、心身ともに健康な状態で学習や運動に取り組むためには、子ども自身が規則正しい生活のリズムを身に付けていくことが大切である。「早寝、早起き、朝ご飯」など、子どもの健康面を考えた生活に配慮するよう、保健指導や栄養指導などを通して児童生徒に理解させるとともに、「学校だより」や「保健だより」などを通して、積極的に家庭へ働き掛けていく必要がある。

中学生においては、小学生に比べ生活習慣の格差が大きくなるため、子ども自身が、日課表や生活ノートなどを活用して自己管理できるよう、個別に働き掛けることも必要である。

○ 家庭での学習の充実を図るために

「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学校の授業以外に、1日当たり1時間以上、勉強をする」「読書が好きである」子どもほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

家庭での学習が、学力の向上に果たす役割は大きい。したがって、発達段階に応じた習慣化や学習内容の充実を図っていくことが重要である。また、その際には、取り組む方法や内容など、どのように学習をするとよいか子ども自らが計画を立てて進められるようになることも大切である。

まず、家庭での学習の仕方を身に付けることが必要な段階では、教師からやり方や課題の例を示し、家庭での学習の習慣化を促すことも大切であるとする。その後、子ども達の実態に合わせて、学習方法や内容、ペース等を子ども自らが自身の必要に応じて決めることができるように支援を行っていく必要がある。例えば、家庭での学習を行う際の環境を整えるよう、家庭に働き掛けたり、何を行えば良いのか迷っている子どもに、対話を通してアドバイスしたりすることが求められる。

(2) 自尊感情等について

○ 自己肯定感や自己有用感を育むために

「自分には、よいところがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」子どもほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

自己肯定感・自己有用感をもった子どもや、幸せであると感じる子どもは、毎日の生活に満足し充実した状態であり、自分を大切にするだけでなく、他人も大切にすることができる。そして、正義感を持ち、規範意識がしっかりしている子どもは、学習規律を守り、安定して学習に取り組むことができる。こうした気持ちは子どもの心を安定させ、学習をはじめとした学校での様々な活動で効果を上げていると考える。

学校では、友達同士の関わりを大切にしながら自分が大切に思われていることを感じたり、友達を大切に思ったりすることができる活動を取り入れる。授業における話合いの場面では、人の意見を最後まできちんと聞き、受け止め認めた上で、意見を述べるという指導を徹底する。また、教師は子どもの頑張りやよいところを見つけ、積極的に伝える。このようなことを大切にするなどして子どもの心を安定させたい。

(3) 地域・社会との関わりについて○ **地域・社会への興味・関心を高めるために**

「新聞を読んでいる」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」子どもほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

地域・社会への興味・関心を高めさせることが大切である。そのために、学校においても地域のことを調べたり地域の人と関わる活動を取り入れたりして地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせることは有効な活動である。また、朝の会や帰りの会などの機会をとらえて、子どもが関心をもった新聞やテレビのニュースを取り上げ、感じたことを発表させたり、教師自らが話題に出したりすることも一つの方法である。また、日々の学習内容を社会の動きと関連させ、世の中の出来事などの社会的事象に関心をもたせる学習を行うことも必要である。

(4) 主体的・対話的で深い学びについて○ **主体的・対話的で深い学びの実現のために**

「これまで受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「これまで受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると思う」子どもほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を常に図っていくことが大切である。「ナゴヤ学びのコンパス」の考えを大切にしながら、各学校の子どもたちの実態に合った学びを推進していただきたい。重視したい学びの姿は以下の3点である。

【自分に合ったペースや方法で学ぶ】

子どもたちが自らの学習を調整できるようにするために、教師が「見通す」「実行する」「振り返る」という3段階のプロセスについて、単元を基本に構成して日ごろの学習でその流れを子どもたちが意識できるようにする。

具体的な支援としては、子どもたちが必要とするタイミングで自己選択、自己決定しながら学べるよう、教師が学習環境を整えたうえで、学びの目標を基に学びの計画を立てることを子どもたちに委ね、一人一人の計画をチェックし、アドバイスをする。子どもたちが決めた学び方を実行する機会を存分に保障する。最後に、自分の学びを振り返り、どんな感想をもったか、次の学びにどう生かしたいかを考える。そのようなサイクルを繰り返していく。

【多様な人と学び合う】

学びは、多様な人たちと触発し合いながら互いの考えを深め発展していく。まずは、学級の仲間と安心して学び合うことができる「ゆるやかな協働性」を醸成することを意識する。そのうえで、様々な人と協働的に学習や活動に取り組む時間や場の設定に力を入れていく。学び合う人を学級から学年、学校、地域、社会へと広げていく。

【夢中で探究する】

学びを通して、学びの面白さを感じ、結果として達成感や成就感を味わい、自分の得意な領域を見付けることが大切である。自分なりの問いを立て、自分なりの方法で、自分なりの答えにたどり着くことができるような、探究的な学びを実現していく。

(5) 大切にしたい視点**ア 小学校**

小学校の指導では「規則正しい生活や計画的な家庭学習の習慣付け」「自尊感情や自己有用感の育成」「地域・社会への興味・関心の喚起」の3点が大切な視点である。学校と家庭・地域が相互理解に基づいて連携を図っていくことはもとより、学校として、家庭が持ち得ない知識や情報を学校だよりや保健だより、懇談会の場などを活用して提供し、啓発を重ねる必要がある。

イ 中学校

中学校では保護者に働き掛けることも大切であるが、生徒自身が自分の生活時間を管理し、自ら学習に取り組めるようにする指導が重要である。生徒自身が主体として意志決定し、行動できるよう、学校と家庭・地域がそれぞれの役割を理解し、「共に育てる」という意識で取り組んでいくことが大切である。

(6) 児童生徒の学力向上に向けて家庭・学校が果たす役割**ア 家庭**

- 子どもの生活を支える基盤となり、社会生活の第一歩を踏み出す役割
- 子どもに温かい言葉を掛け、よさを認め、自尊感情を育む役割
- 子どもの話すことに耳を傾け、子どもが安心でき、エネルギーを蓄える役割
- 子どもに世の中のきまりやルールを教え、規範意識を芽生えさせる役割

イ 学校

- 子どもの「学び」の基盤となり、社会で必要な知識や技能を身に付けさせる役割
- 子どもの努力を評価し、積極的に学習活動に取り組もうとする意欲や態度を育み、自尊感情を高める役割
- 集団の場での他者とかかわりや、自分とは何かを考えさせることにより、子どもを伸ばしていく役割
- 道徳の授業や体験的な学習を通して、規範意識を高めていく役割

学校は様々な機会をとらえ、家庭・地域に協力を依頼していく必要がある。その際、家庭・地域が期待する教育的なニーズを把握し、教育活動に生かしていくことも重要である。

今年度は保護者向け電子版リーフレット「子どもたちの学びを支えるために～令和5年度全国学力・学習状況調査名古屋市の結果より～」を配信した。このリーフレットは、分析結果から見えてきた課題をもとに、子どもたちの学力向上に向けた授業改善や、ご家庭において見直すべき生活習慣などについてまとめ、掲載した。学校と家庭の連携に向け、ぜひ、活用いただきたい。

(7) 指導上の改善にかかわるチェックポイント

各学校の実態は様々であり、どのような取り組みが必要かは、実態を基に判断しなければならない。指導上の改善にかかわるチェックポイントを一覧として示したので、次の表を参考にして取り組みを考えてほしい。

• 結果だけを評価せず、子どものよさや努力を認めていますか。
• 厳しいだけでなく子どもに温かい言葉掛けをしていますか。
• 子どものよいところを伸ばしたり役立っていることが実感できるたりする活動の場を設けていますか。
• 子ども主体の学びに伴走する姿勢を大切にしていますか。
• 子どもの発達段階に応じて、家庭学習の方法について子どもにアドバイスをしていますか。
• 家庭学習の状況把握のため、家庭での様子を生活ノートやタブレットPC等でチェックしていますか。
• 地域のことを調べたり、地域の人と関わる活動を取り入れたりするよう計画していますか。
• 社会的な事象に対する関心を高める取り組みを授業や朝の会等で行っていますか。
• 授業の中で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む活動を取り入れていますか。
• 授業の中で、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表する活動を行っていますか。
• 授業の中で、自分の考えを深めたり、広げたりできるような話し合い活動を行っていますか。
• 子ども一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していますか。
• 授業の中で、ICT機器を活用して、効果的に指導していますか。
• 子どもの姿を基に、授業を実施し、評価して改善を図るPDCAサイクルを確立していますか。
• 結果だけでなく子どものよさや努力を認めるよう家庭に働き掛けていますか。
• 厳しいだけでなく子どもに温かい言葉掛けをするよう家庭に働き掛けていますか。
• 規則正しい生活ができるよう家庭に働き掛けていますか。
• 家庭学習の習慣を付けるために家庭に働き掛けていますか。
• 子どもが学習しやすい環境を整えるよう家庭に働き掛けていますか。
• 子どもが興味ある学習に取り組める環境を整えるよう家庭に働き掛けていますか。